



血液内科のスタッフ



身放射線照射(TBI)の様子。照射位置を少しずつ調整していく



末梢血幹細胞を採取する様子

**最先端の医療を目指し
臨床試験も積極的に実施**

誌では受け入れに抵抗があります。それに対し、当院のスタッフは、日常的に行っている血液腫瘍の診療経験を生かし、適切に対応しています

「患者さんを絶対に断らない」というボリシーのもと、急性白血病の患者を数多く受け入れていることも特色といえるだろう。そこにも、クリーンルームなどの設備や、血液・骨髄検査体制の充実に加え、スタッフの血液内科治療における経験が役立っているという。「急性白血病の患者さんは、血液中の白血球や血小板も少ないため、治療経験がない施



血液内科部長 木口 亨

きぐち・とおる●1996年に鹿児島大学医学部を卒業。2011年より現職。日本血液学会認定血液専門医・地方会評議員、日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医ほか。



スタッフによるカンファレンスで、患者の情報を共有



気圧がコントロールされたクリーンルーム

手厚い地域医療や最先端治療の研究などで世界に冠たる血液腫瘍治療を目指す



白血病やリンパ腫、骨髄腫などを治療の対象とする血液内科は、分子標的薬に代表される抗がん剤治療や、造血幹細胞移植の進歩により、治療成績が大きく向上してきた分野だ。

病院では、血液内科部長の木口亨医師が中心となつて、血液腫瘍に対する診療体制を拡充。「広島県東部地域において、白血病などの血液腫瘍の治療に特化し、自己末梢血幹細胞移植や同種造血幹細胞移植まで行つている施設は当院のみです。それだけに、地域から多くの患者さんが来院されます」というニーズに応えるため、医師の増員や、クリーンルーム10床を含めた52床の病床

の確保を進めてきた。2011年に木口医師が着任して以降、治療の選択肢も増えており、「全身放射線照射（TBI）」や、感染症を防ぐための「顆粒球輸血」、通常の造血幹細胞移植よりドナーの対象が広がる「ハプロ移植」を備後地域で初めて実施している。

悪性リンパ腫や慢性骨髓性白血病に対する分子標的薬など、新しい抗がん剤を積極的に応用しながら、患者の状態に配慮した診療を心がけている。「同じ治療でも、一人ひとりに合わせて抗がん剤の量を調整することで、治療効果や副作用・合併症の有無が違ってきます。時には躊躇せず、治療のために必要な量をしつかり投与しつつ、副作用・合併症をコントロールすることも求

められます」と木口医師。そうした、一人ひとりの症例に応じた治療を実現させることに、血液内科医としての豊富な経験が生かされるといふ。その際、医師看護師、薬剤師、臨床検査技師も含めたチームでの対応も重要なため、スタッフ全員で週に1回は全員で参加するチームカンファレンスも開催。全スタッフで意見を出し合い、どの患者にも等しい水準かつ、ミス



新医療を世界に発信することを目指す中国中医病院



診療科目：血液内科・内科・腎臓内科・糖尿病・内分泌内科・リウマチ科・消化器内科・循環器内科・呼吸器内科・小児科・外科・消化器外科・呼吸器外科・乳腺外科・内分泌外科・食道・胃・肝臓・胆管・脳・腰痛・外傷・眼疾患・耳鼻咽喉科・皮膚科・産科・婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・放射線科・歯科口腔外科

麻酔科(田中利明)、精神科、脳神経外科、臨床検査科

受付時間 月～金 8:30～11:00 休診日:土・日・祝・年末年始 (12/29～1/3)

元720-0001 広島県福山市御幸町太字上岩成148-13

「在宅では十分に治療の可負担性がありますので、決して希望を捨てないでいただきたいのです」。そう訴える本医師は「破顔一笑」を座の銘にして、笑顔が絶えない施設であることを心がけている。一人ひとりの患者に向

取材／鈴木健太